

蠶絲貿易ニ關スル陳情書

2777



114
A3230

蠶絲貿易ニ關スル陳情書



謹テ書ヲ内閣總理大臣伯爵大隈重信閣下ニ呈ス夫
輸出入貿易ノ振ト不振トハ唯當業者ノ休戚ニ關ス
ルノミニアラズ延テ國運ノ消長ニ係ルト謂フモ亦
過言ニアラズ惟フニ輓近各種ノ高工業類ニ發達勃
興シ隨テ國民ノ生計日ニ月ニ其度ヲ高メ海外物品
ノ需用益其増加ヲ來セルハ固ヨリ國運進歩ノ好兆
トシテ宜ク賀スベキ所ナレモ亦一面ヨリ觀察スレ
バ此ノ比年輸入ノ超過ハ却テ患フベキノ原因ヨリ
來ル者アリ數年來米作不獲ナリシニ引續キ昨年ノ

大正十一年四月
大隈伯爵郵寄贈

申
蠶絲貿易
且

秋収ハ一層凶歉ナリシヲ以テ外國米ノ輸入非常ノ多額ニ上リ輸入超過殆ント九千万圓ニ垂ントセリ翻テ我國ノ輸出如何ト顧ルニ内國ノ商工業者ハ物價暴騰ニ加フルニ金融梗塞ノ爲比較上僅少ノ輸出額ニモ忍サルヲ得サルノ悲境ニ陥リタルハ自然ノ勢亦免レカタキモノアリトハ云ヘ之ガ救濟ノ途ヲ講ズルハ當ニ當局者ノ任務ニ属スベキヲ信ズ殊ニ我國貿易品中ニ就テ其首位ヲ占ムル蠶絲ノ貿易業者ガ金融ノ圓滑ヲ缺クガ爲ニ日ヲ逐フテ悲境ニ陥ラントスルハ掩フベカラサルノ事實ナリ乃チ左ニ

蠶絲貿易及其製産ノ現状ヲ具申シ併セテ之ニ對スルノ所見ヲ開陳シ敢テ閣下ノ採納ヲ仰カントス抑モ蠶絲製産ノ原料タル養蠶収繭ノ時期ハ各地畧ホ其期ヲ一定ス故ニ此時期ニ際シ製絲家ハ各其地方ノ産出ニ係ル生繭ノ供給ノミヲ以テ満足スル能ハズ先ヲ爭フテ各養蠶地ヲ跋躋シ敢テ其期ヲ愆ラシトテ恐ル、モノ、如ク競フテ其買収ニ汲々タルノ状猶蟻ノ甘キニ集ルカ如シ是レ一般製絲家ノ原料仕入ニ於ケル現時ノ状態ナリトス製絲家ノ原料買入ハ前陳ノ如ク頗ル機敏ヲ要スル

モノタリ然レ先ツ巨万ノ資金ヲ懷ニスルニアラザ
レバ以テ機宜ニ投ズル能ハズ然ルニ製絲家ナルモ
ノ平常斯カル夥多ノ資金ヲ貯フルガ如キ餘裕アル
モノハ殆ンド稀ニシテ多クハ他ニ其資金ノ融通ヲ
仰ガザルベカラザル次第ナルニ舊臘以來横濱生絲
市場不況ノ否運ニ遭遇シ且ツ物價騰貴ノ爲メ製産
費ノ上ニ於テ殆ンド數割ノ増加ヲ來シ金融益梗塞
シ各自近來未ダ嘗テ見ザルノ高利ヲ支拂フモ尚且
ツ融通ノ途ナキガ如シ思フニ若シ現時ノ俛ニ放任
シタランニハ賣込高及各地方製絲家ノ困憊實ニ名

状スベカラザルモノアラントス今一步ヲ進メテ左
ニ各製絲家資金運轉ノ實状ヲ述ベシニ先ツ各自其
製絲場ニ於テ一歳ノ間ニ製出セララルベキ生絲産額
ノ割合ニ應ジテ多クハ横濱賣込高ヨリ原料仕入ノ
前貸金ヲ借入レ以テ生繭仕入ノ資金ニ供シ而シテ
後順次買収セル生繭ヲ其地ノ銀行ニ抵當預ケトナ
シ之ニ因テ高利ノ資金ヲ借入レ一歳間ノ需用ヲ充
タスノ生繭ヲ得ルニ至ルマデハ轉々流用シテ止マ
ザルト是レ實地ノ手續ナリ故ニ其買収セル生繭カ
生絲ト成リテ横濱市場ニ到達スルノ日ハ已ニ幾重

ノ利子ヲ負擔セザルベカラザルハ勿論而モ非常ナ
ル高利ヲ支拂ザルヲ得ザルハ實ニ浩嘆ニ堪ヘザル
所ナリ翻テ更ニ吾々ノ同業者タル賣込商ノ位地ヲ
顧ルニ亦固ヨリ自己限り有ルノ資財ヲ以テ各地方
多數製絲家限り無キノ需ニ應ズルヲ能ハズシテ其
多分ハ融通ヲ各銀行ニ請ハザルヲ得ズ而シテ假シ
其金利ノ低カラザルハ詮ナシトシテ高利ヲ拂フモ
尚ホ未ダ吾々ノ必要ナル求メヲ満タスノ融通ヲ得
ル能ハズ斯ル困難ノ時ニ際シ一朝外國商況不振ニ
シテ我貿易市場ニ巨額ナル生絲ノ停滯ヲ來タシ其

價格荷為替金額以下ニ低落スル曉ニ至リ賣込商及
銀行業者ヨリ製絲家ニ對シ之カ差シ金ノ請求ヲ爲
スモ固ヨリ之ニ應ズルノ餘資ナキハ勿論各製絲家
ハ此悲境ニ臨ミ其金利ノ彌嵩マルガ上ニ債権者ノ
督促急ナルニ堪ズシテ遂ニ市場ニ投賣セザルヲ得
ザルニ至ラシメ之カ爲ニ金融益壅塞シ當業者愈悲
境ニ陥リ復起ツ能ハザルニ至リ輸出入ノ權衡一頓
挫ヲ來タシ延テ國家經濟ノ上ニ一大恐慌ヲ惹起シ
タリシハ既往ノ實例ニヨリテ夙ニ世人ノ識認スル
所ナリ

吾々當業者ハ時ニ應シ之ガ救濟策ヲ立テ以テ時ノ當局者ニ陳述セシトアリシト雖モ未タ政府ニ於テ之ニ處スル救濟ノ途ヲ啓カレタルヲ聞カズシテ荏苒今日ニ至レリ然ルニ政府ハ茶業者ニ對シテ八年相當ノ保護金ヲ下附シ以テ其貿易ノ發達進步ヲ企テ又昨年來綿絲紡績業者ノ否運ニ陷ルヤ政府ハ勸業銀行ヲシテ之ガ救濟ノ任ニ當ラシメ拮据其事ニ經營セシメツヽアリト聞ケリ均シク是レ我國重要國產ノ一ニシテ而モ輸出額ノ大半ヲ占ムル蠶絲ニ就テハ未ダ政府ニ於テ何等ノ保護或ハ獎勵策ノ

講セラレタルヲ聞カザルノミナラズ生絲輸出税ノ廢止モ未ダ之ヲ斷行セズシテ當業者ニ徒ニ苛重ノ義務ヲ負ハシメテ顧ミザルガ如キニ至テハ最モ怪訝ニ堪ヘザル所ナリ唯昨年生絲直輸出獎勵法ナルモノ、發布ヲ見ルニ至リシモ是レ甚ダ不當ノ法律ニシテ到底今日ノ狀態ニ適スヘクモアラサルヲ知ルヤ政府ハ遂ニ今年第十二議會ニ之レガ廢止法案ヲ提出シ内外國民嗤笑ノ下ニ之ヲ廢止セザルベカラサルノ止ムヲ得サルニ至リシ一事アルノミ然リ而シテ全國生絲ノ産額八年一年ニ増加ヲ來タシ明

神奈川縣蠶絲貿易商組合
治十七八年ニ於テハ生絲ノ横濱市場ニ入荷セシモ
ノ僅ニ年四萬七千四百有餘個ニ止マリシモ爾來十
有餘年ヲ經過シタル今日ニ於テハ殆ント其三倍ノ
増額ヲ見ルニ至リタリ即廿八年ニ於テハ實二十三
萬八百有餘個ノ多數ニ上レリ然ルニ金融ノ途ハ之
ニ及シ歳ヲ追ツテ逼迫ノ一方ニ傾キ賣込商製絲家
トモ爲ニ事業困難ノ下ニ立テルニモ不拘政府ハ恰
モ之ヲ對岸ノ火災視シテ顧ザルハ何ソヤ仄ニ聞ク
政府ハ貿易業者ノ爲最低ノ利率ヲ以テ其資金ニ供
セシメントテ海外貿易資金ナル名稱ノ下ニ日本銀

行ヲシテ巨額ノ資金ヲ正金銀行ニ附セシメアリト
然ルニ吾々貿易商ニ於テ同行ニ就キ金融ヲ求モン
トスルモ容易ニ其望ヲ達シ得ザルハ勿論其利率モ
亦普通營利銀行ト差アルトナシ而シテ又巷間傳フ
ル處ニ依レハ正金銀行ハ不貲金額ヲ而モ低利ヲ以
テ横濱在留ノ外國人ニ貸與セリ云々ト吾々ハ未ダ
容易ニ之ニ信ヲ措ク能ハザルモ此等ノ事ハ屢吾々
ノ耳ニスル所ナリ
若シ正金銀行ニシテ單ニ外國人ノ信用ハ内國人ニ
於ケルヨリモ勝レリト云フノ理由ヲ以テ斯カル不

申奈川縣蠶絲貿易商組合

公平ノ擧ニ出デタルモノトセバ正金銀行ナルモノ
ハ我國ニ於ケル唯一ノ貿易中央銀行タルノ實ニ背
クモノニアラザルナキヤノ感ナキ能ハズ抑モ又吾
吾貿易商及製絲家困難ノ主因ハ多クハ金融逼迫ニ
依ルモノナルヲ前既ニ陳ブルトコロノ如シ然ルニ
當港ニ於ケル貿易上唯一ノ機關タル正金銀行ニ於
テスラ其爲ス所右ノ如キ有様ナルヲ以テ吾々ハ一
層其不便ニ堪ヘザルナリ吾々ハ此點ヲ以テ徒ニ正
金銀行ヲ攻撃非難スルモノニアラズト雖モ苟モ政
府特別保護ノ下ニ立テル貿易機關銀行トシテ之ニ

重キヲ措ク以上ハ屬望スル所モ亦隨テ大ナラザル
ヲ得ザルナリ
然リト雖モ吾々ハ同行ニ向テ平時巨額ノ資金融通
ヲ望ムノ到底徒勞ニ屬スルモノタルヲ知ルト雖モ
近年ノ如ク金融ノ梗塞金利暴騰ノ甚シキ時期ニ當
リテハ政府ハ此間ニ立テ相當ノ救濟方ヲ講セラレ
ント切ニ希望ニ堪ヘザルナリ殊ニ毎年九月以後二
三ヶ月ニ渉ル間ニ於テハ各地方ヨリノ生絲貨物續
續横濱市場ニ出荷シ最モ市場活氣ヲ呈スルノ秋ナ
リトス若シ一朝此時期ニ際シ外國市場不況ニシテ

生絲ノ賣行キ不振徒ニ荷物ノ停滯ヲ來スアアラバ
各製絲家ハ金利ノ増加ヲ恐レ勢ヒ製産費以内ノ低
價ヲ以テ之ヲ投賣セザルヲ得サルノ悲境ニ陥ル
前段既ニ述ルガ如シ故ニ斯業者一度此厄運ニ遭遇
セニカ數年間ノ經營苦辛ヲ以テスルモ尙且其損失
ヲ恢復スルヲ得ザルナリ於是乎政府ハ宜シク斯業
者ガ未ダ如斯悲境ニ沈淪セザルニ及ビテ先ツ我國
經濟界ノ唯一主腦機關ニシテ之カ救濟ノ責アル日
本銀行ヲシテ銳意更ニ之ニ處スルノ方ヲ講セシメ
併セテ正金銀行其他ノ機關銀行ヲシテ之カ補翼ノ

任ニ當ラシムルノ急務ナルベキヲ信ズ閣下冀クハ
賢察ヲ此ニ垂セラレ以テ直接ニ製絲家ヲ保護シ併
セテ貿易ノ萎靡經濟上ノ恐慌ヲ未然ニ防グノ道ヲ
講ゼラレニテ聊カ斯業者目下ノ概況ヲ具陳シ敢
テ閣下高明ノ裁斷ヲ仰ク頓首謹言

明治三十一年八月

神奈川縣蠶絲貿易商組合員

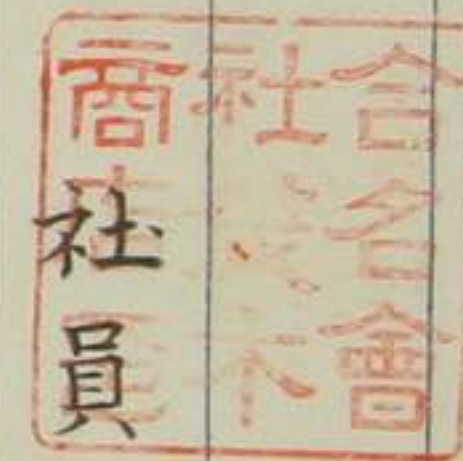
小野光景

若尾幾造

原善三郎

合名會社茂木商店

社員茂木惣兵衛後見人



三品常七



茂木保平



渋澤作太郎



安西德兵衛



山田駒吉



同伸株式會社々長

渡邊洪基

三井物産合名會社

旅

横濱支店支配人



津田興二



鈴木宇右衛門



大河原鶴子後見人

渡邊幸之助



渡邊文七



森野川合名會社々長

森山金輔



小島源次郎後見人

角和善助



合名會社茂木商店

社員茂木惣兵衛後見人



三品常七



茂木保平



洪澤作太郎



安西德兵衛



山田駒吉



同伸株式會社々長

渡邊洪基

三井物産合名會社



横濱支店支配人

津田興二

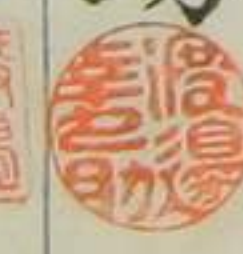


鈴木宇右衛門



大河原鶴子後見人

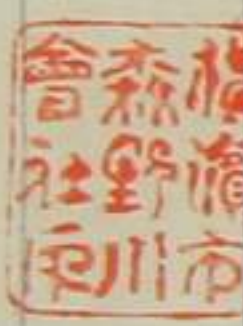
渡邊幸之助



渡邊文七



森野川合名會社々長



森山金輔



小島源次郎後見人

角和善助



旅行不在

飯島スニ後見人

小關勝之助

小林源左衛門

柏木彦太郎

松浦嘉兵衛

井上好雄

金子政吉

松浦吉松

青木角藏

木村利右衛門

高橋文左衛門

神榮株式會社橫濱支店

取締役支店長

丸岡寛三郎

橫濱生絲合名會社

業務擔當社員

伊藤富次郎

萩原信義

多加谷總象

伊藤金兵衛

市橋甚藏



矢島善七



日本生絲貿易株式會社

橫濱出張店

社長山本龜太郎代理

多加谷總象



小川勝三郎



森田浪吉



長谷川儀一



椎野正兵衛



高橋幸三郎



內閣總理大臣伯爵大隈重信殿

